

特集 1 動き出した環境施策

当社の使命、それは 地球環境問題に対し行動すること



●鉄道事業と「環境」の親和性

今日、企業の社会的責任への期待がますます高まっています。鉄道を主力事業と位置づけるJR東日本グループでは、CSRのさまざまな活動領域の中から鉄道事業と環境活動の親和性に着目し、我々の社会的責任を果たすために最も重要な課題は環境への取り組みであると考えました。

鉄道は、CO₂排出量が他の交通機関と比べて極めて小さい乗り物です。一方で、JR東日本全体では、事業規模の大きさに比例し、多量のCO₂を排出していることもまた事実です。私たちは鉄道の環境負荷の小ささに甘えず、過去の成功体験、あるいはその延長線上の発想とは無縁の新たな「変革」に挑戦し、環境問題へ積極的かつ長期的に取り組むことを掲げました。

●低炭素社会実現に向けた変革

1992年に「エコロジー推進委員会」を設置し、環境活動を本格的にスタートして以降は、「省エネルギー」「ゼロエミッション」「鉄道の利用促進」を三本柱に取り組んできたほか、植樹活動のような環境保全活動にも地道に取り組んできました。ゴミの減量化やリサイクルが市民生活レベルまで浸透する一方で、地球温暖化の問題は世界規模でその深刻さを増しています。JR東日本では、環境活動の軸を温暖化対策へ移すとともに、従来にない取り組みとして「駅」に焦点を当て、都内の2駅で効率的な照明配置や自動点消灯装置の導入など、低炭素社会実現に向けた挑戦を始めました。2009年にはこれを首都圏の駅を中心に展開していく予定です。また周囲の自然環境と調和させ、最先端の環境技術を導入することで、利用されるお客さまにも「エコ」を体感いただける駅「エコステ(ecoste:environment earth conscious station of east japan railway company)」を全事業エリアで展開します。

●ブレイクスルーを確実に掴む

今後、環境に対する社会の取り組みが加速し、やがて技術的なブレイクスルーが起こり、風力発電や太陽光発電などの再生可能エネルギーで電車を動かせる日が来るかもしれません。私たちは将来的に起こりうるブレイクスルーのタイミングを逃さず、地球温暖化の防止へさらなる貢献を果たしていきたいと考えています。

地球環境問題はすでに議論の段階ではなく、行動に移す段階です。私たちは、自ら掲げた高い目標に対して決してあきらめることなく、まず行動するという姿勢を大切に、取り組みを進めてまいります。



常務取締役
総合企画本部副本部長
監査部担当
財務部担当

大和田 徹